



今月の国際テーマ : *Empower the Youths!*

今年度クラブテーマ「地域と繋がろう・地域を知ろう・地域に知られよう」



4・5月のワイズメンの  
奉仕と交流のスナップから



左上) 5月20日、東京YMCA 東陽町センターで3年ぶりの対面による関東東部次期役員研修と引継式が開催された。亡きメンを偲び、解散していくクラブを惜しみつつ、前を見て進んでいきたい。(上松、浅羽 出席)

右上2枚) 同じ20日、ユース事業「オープンフォーラムY」が日本YMCA 同盟(四谷)で開催。ユースとワイズが交流。ユース事業委員長の衣笠メンはこちらで活躍。

中・左下) 4月24日 川越Ys「散歩例会」はか和語絵の喜多院、五百羅漢へ。所沢・埼玉Ys参加。(衣笠メン・浅羽メネット)

### 6月「ドレミファ」例会

日時 : 6月26日(月) 14:00~16:30

会場 : き咲きてらす

協議 :

- \* 5月例会の協議継続と年度の振り返り。浅羽会長の3年目の課題。
- \* 6月の歌「浜辺の歌・ドレミの歌」
- \* 5月例会の協議内容はその要点を別途配信します。

#### <5月の聖句>

「まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わされた方を信じるものは、永遠の命を持ち、さばきにあうことがなく、死から命に移っています。」

(ヨハネによる福音書5章24節)

### わが生涯の恩師を偲ぶ

上松寛茂



昨年12月14日に召天されたわが生涯の恩師青山学院大学名誉教授関田寛雄先生を偲ぶ会が5月13日(土)かつて先生が牧されていた日本基督教団川崎戸手教会であり、関田アドバイザーグループ(AG)のOB/OGら26人ほど

が集まり、在りし日の先生を語り合った。

米国留学から帰国、母校の青学の助教授に就任、直後にスタートした関田AGは卒業後OB/OGの青竹の会として継続、筆者自身もその当時からの会員で、以来50年以上にも及ぶ読書会という形で先生のご指導を受けてきた。召される日が近いことを察知したかのように昨年11月19日に“最期”の会合で、「終わりを生きる・課題を生きる」を主題とした“遺言”を残された。その1ヶ月後の12月14日に召された。筆者はその数日前に投函されたクリスマスメッセージのはがきをいただいている。「生涯の宝物」だ。この日集まった先生の教え子たちの大半は還暦をとうに過ぎ、召される日もそう遠くはない老境の途上にある。先生は大学での研究・教鞭に加え、川崎市での2つの教会の牧師としての働き、地域社会の在日韓国朝鮮の人々の人権・生活支援など幅広い活動をされてきた。ご葬儀は、千葉県大網白里市のお住まい近くのJAが経営する小さな葬儀場で、家族だけで営まれたという。日本基督教団から聖餐問題で懲戒免職処分を受けた牧師が司式。先生はその牧師の処分撤回運動の代表世話人をしておられた。先生の視点は弱者に向けられ、いつも損な役割を進んで担っておられた。

19年間務めた日本の森林林業の現状を取材するジャーナリスト集団「日本林政ジャーナリストの会」の会長を、また5年間引き受けたYMCA・埼玉ワイズメンズクラブ会長を退任。逆にわが身にとっての大きな“重荷”ともなっていた課題から解放され、自由な開放感にあるのは快適だが、さて、「課題をもって生きる」といわれても、それを今、真摯に考えている最中。ただ生きているだけでは…。❖



「関田先生を偲ぶ会」にて

「私たちは歴史の転換点を迎えています。第二次世界大戦以来最大の共通の試練において、人類はブレークダウン(崩壊)かブレークスルー(突破)かという厳しい緊急の選択を迫られています。」



これはグテーレス国連事務総長の声明“**Our Common Agenda** (私達の共通課題)”(以下「共通課題」)の書き出しだ。おそらくほとんどの人は知らないと思う。ここ数年日本で喧伝されるSDGsだが、期限となる2030年への展開が思わしくないところへコロナ禍が世界を席卷。焦った国連加盟諸国が事務総長に現状分析を要請。それに答えて2021年9月に彼が共通の行動指針として発表したものだ。

「共通課題」づくりには専門家だけでなく、若者や市民グループなど多数が真剣に研究と討議を重ねている。「ブレークダウンかブレークスルーか」は、これが人類を救う最後のチャンスだという国際社会の強い危機感を感じさせる。基本姿勢として；1) グローバルな連帯、2) 市民参加、3) 虚偽の情報(Info-demic)阻止、4) 開発の指標そのものを見直すなど。そしてSDGs達成に向けて、地球環境を守る、女性や若者を主役にする、デジタル分野で連帯する、グローバルな健康リスクに備えるなど12の約束Commitmentが提示されている。



(冊子“**Our Common Agenda**”挿入写真)

今私の周りに、ある心配事を共有する人が増えている。それは日本が国際社会から置き去りにされつつあり、日本人の多くがそのことに気づいていないことだ。そんな中、国際協会から「戦略2032」が与えられた。それをどう今の日本に適用できるか否か。高齢化していくメンにとって2032年そのものがチャレンジである。そこでワイズが世界「運動」だということをも一度想起したい。個人、クラブ、部区各レベルで課題に取り組み、外へ発信すれば、その影響は決して小さくないと思う。

我がクラブは今後「ジェンダー・LGBTQ」を勉強していくことにした。私自身はそれで共感し合える若者や市民とつながりたいし、ワイズが「共通課題」に取り上げてもらいたいと思っている。❖

# YMCA Vision 2030

速報：第21回アジア太平洋 YMCA 総会



来たる9月15日～20日までインド南部のチェンナイ市（旧マドラス）にて21回目のアジア太平洋地域のYMCA総会が開かれる。アジ

ア太平洋YMCA同盟（APAY）に連なり、活動している約450の都市YMCAが、コロナ禍という地球大の危機的な事態の中であって、地域の課題や各国が抱える問題をシェアし、どう連携し協力しあえるか協議し、指針を採択する。

今総会で強調される点はコロナ禍を乗り越えてきたことで証明されたYMCAのレジリエントな（抵抗力のある）体質だ。そこで全体テーマは「レジリエント・コミュニティとして一緒に旅を続けよう」（私訳）となった。「ビジョン2030」を基に話し合い、レジリエンスの視点を各YMCAの活動に組み入れたいとしている。決議されるとその後4年間の各Y同盟と、そこに連なる都市YMCAの事業の指針となるはずだ（上掲ポスター参照）

また直前の13日～15日には第5回ユース・アセンブリーと第1回ジェンダーエクイティ・フォーラムも同市で開催される。因みに総会をホストするYMCAマドラスは今年創立132年を祝う。（APAY機関紙からの情報を抜粋。）

追記：APAYはここ数年にわたって各地のYMCAにおけるジェンダーの公正やユースエンパワーをアピールしている。だがアジア諸国ではYMCAですら今も伝統的体質が根強く、長老男性たちの権威が大きいようだ。前回のユースアセンブリーで知り合った若者の言った一言を思い出す。「集合写真を撮る段になると、長老たちが当然のように最前列の真ん中に陣取って座るんですよ。」日本のYMCAはどうだろうか。（浅羽 記）



2019年のユースアセンブリー（代々木オリセン）

# YMCAの小窓から

\* 浦和YMCAの活動を支えよう！

皆さまこんにちは。坂室（さかむろ）と申します。私は浦和センターでパート職員を5年余りしておりました。4月より同じ浦和センターにて常勤となり、主に特別支援教育を担当しています。放課後になると発達に凸凹のあるお子さんが来るのですが、その個性は本当に様々です。毎日、子どもたちと向き合っていてその優しさや素直さに接していると私が支援しているのか、支えてもらっているのか分からなくなることがあります。きっと、両方なのだろうとも思います。

まだ慣れない環境の中ではありますが、周囲の方々がお忙しい中でも助けてくださり感謝しています。また、ときおり埼玉Y'sの方が事務所にお顔を見せてくださることも心強く感じております。

（坂室由美子 職員 記）



写真は土曜の中高生クラスで私が指導している時のものです。みんな各々の意見を言いながらも折り合いをつけたり、譲れないときは別室で心を落ち着けるなどの対処法を使いながらワンチームとして活動しています。



## ◆ 諸報告

### ◆ 4月「AIは愛？」例会

4月24日の月例会は3月の卓話に続いて、卓話を企画した。今回はさいたま市内で街の絵本屋さん「kitten Blue（青い目の子猫）」を昨年始めた佐藤優子さん。地域の子供や親子が気楽に立ち寄って絵本が読めるような第三の居場所を通学路に開きたいという以前からの夢を実現した訳だ。子供の時に絵本を読み聞かせてもらった体験は大人になってか

らも忘れられない大切思い出だ。佐藤さんは持参された様々な絵本を開いては、それぞれの作者や画家の思いを解説してくれた。画家の松谷修二氏（ゲスト）は絵本の命は文字より絵にあると力説し、絵本画家の責任の大きさを強調された。（浅羽 記）



[出席] ゲスト：佐藤優子、山本熱史、藤井芙美、矢田部久美子、猿渡豊子、今泉陽香、松谷修二、浅羽 恵  
メン：浅羽、上松、衣笠、水無瀬（敬称略）

### ◆ 5月 夜談会

15日（月）に恒例の気楽におしゃべりを楽しむ「夜談会」を新都心駅西口のけやき広場「青蓮」で開催した。



良くまあ途切れずに話が弾むものだ、と毎回感心するが、日々の体験が溜まって、月1回この溜まり場で発散しているのだ。これが話すメリットならば、辛抱強く聞くのもメリットだ。初参加者への気配りも大切だ。要するに本会は高齢者に必要な外出・社交・気配り・脳トレを楽しむ格好の場なのだ。（浅羽 記）

[出席] ゲスト：宮原、ビジター：山本（甲府21）、大輪、メン：上松、三浦、浅羽（苗字のみ・敬称略）

### ◆ 5月「ほととぎす」例会

22日の本例会では重要な議案が俎上にあがった。ユースへの取り組み、ジェンダー学習、ワイズ信条への疑問、例会の日時と会場など。どれも大切で6月例会で継続協議することになった。青年的な真剣な討議に、カメラは汗をかいたようだ。「夏は来ぬ」を歌い、牛乳をしっかりと飲み干した。三浦メン、司会お疲れ！

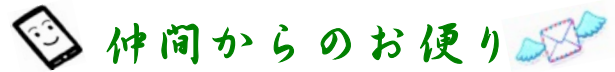
（出席：上松、はが、三浦、浅羽）



### ◆ 関東東部次期会長研修・引き継ぎ会

本研修会は5月20日（土）午後3:00から東陽町センターで開催された。（\*集合写真は1ページに掲載）部役員、各クラブ役員など総勢24名がロの字に座って3年ぶりに顔を合わせて式次第に沿って挨拶と部運営について確認。途中休憩で挨拶回り。質疑に入り、茨城クラブ代表から「いざ立て」の合唱用楽譜があると良い、との意外な提案に少し盛り上がった。研修会は定刻通りに4:00終了。

上松メンと浅羽メンは二次会を失礼して、それぞれの帰路についた。（浅羽 記）



### ◆ 堀和光二郎メン 今月の俳句（俳号 愚道）

#### ① 鯉のぼり立つお屋敷は静かなり

最近鯉のぼりを立てるような家は大きなお屋敷くらいですね。そういうお宅は何故かひっそりとしていますね。

#### ② 迷い猫薔薇垣の中見え隠れ

赤や黄色のバラ垣根の下をいつもの迷い猫がウロチョロしてます。

#### ③ 柏餅膝の痛みに効いてくれ

毎日膝と腰の痛みに耐えています。が美味しい柏餅を食べる時くらい忘れさせてくれ！

### ◆ 浅羽メン

5月13日に都内の新宿文化センターで「春のジャズ祭」が盛大に開催された。ロビーから大ホールや踊り場までを舞台にしてアマ・プロのバンドが交代で演奏。私は準備・受付・片付けなどをしながら多くの仲間と再会。主催した永谷氏から「また練習しよう」ってお声がけをいただいた。感謝。

## Men's FOTO Gallery



「いつのクリスマス祝会だったか覚える？」が衣笠メンからのクイズ。（写真は同氏提供）

統計	出席	会員	ゲスト/ビジター
月例会 (4/24)	12	4	8
夜談会 (5/15)	6	3	3
月例会 (5/22)	4	4	-